

第四十六回帝國議會 貴族院 工場法中改正法律案外二件特別委員會議事速記録第一號

付託議案

工業労働者最低年齢法案
船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案

委員氏名

委員長	伯爵中川	久任君
副委員長	淺田	德則君
	大久保	利武君
	男爵眞田	幸世君
	男爵藤村	義朗君
	江木	翼君
	永田	秀次郎君
	和田	豐治君
	三田	義正君

大正十二年三月十七日(土曜日)午前十時二十八分開會

○委員長(伯爵中川久任君) 唯今ヨリ、付託ニナリマシタ工場法中改正法律案、工業労働者最低年齢法案並ニ船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開會イタクシマス、先ツ當局ヨリ大體ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(塚本清治君) 本改正案ニ付キマシテ大體ノ説明ヲ申上ゲマス、或ハ本會議ニ於テ申シマシタノト、聊カ重複ノ嫌ヲ免レマセヌケレドモ、暫ク御辛抱ヲ願ヒマス、現行工場法ハ御承知アラセラレマス通り、明治四十四年ノ制定ニ係ルモノデアリマシテ、我國ニ於ケル此種ノ立法ノ最初ノモノデアリマシテ、産業ノ經營ニ急激ナル變化ヲ與フルコトヲ避ケマシテ、其適用範圍ヲ狭ク致シテ、就業時間其他ノ制限モ緩ニナッテ居ルノデアリマス、又夜業禁止ニ付キマシテハ長期ノ猶豫期間ヲ設ケマシテ、爲ニ立法ノ目的デアリ労働者ノ健康保護、國民衛生ノ向上ト云フ上カラ見マスルト云フト、遺憾トスル點ガ少ナクナイノデアリマシテ、當時既ニ識者ハ近ク改正ヲ行フ必要アリト云フコトヲ信ジテ居ッタデアリマス、然ルニ工場法制定後既ニ十二年モ過ギマシタシ、其施行後ト致シマシテモ六年モ過ギテ居ルノデアリマス、其間内外ノ形勢ノ變化ト云フモノハ、思フ外大キウゴザイマシテ、工場法改正シテ労働者ノ保護ヲ厚ウスルノ必要ガ、益々緊切ニナリマシタヤウニ思フノデアリマス、ノミナラズ國內ノ事情ヲ見マスルニ云フト、近時經濟事情ノ激變ト、國民思想ノ推移トハ、社會政策ノ施設ヲ要スルコトハ益々急ニナッテ參リマシタ、政府ガ意ヲ多數

ノ人達ノ幸福ニ用キマシテ、此等ノ人達ヲシテ現在ノ實狀ノ下ニ向上發展ヲ期シ得ベシト云フ信念ヲ持セルト云フコトハ國家組織ヲ良好ナラシムル爲ニ常ニ必要トスル所デアリマシテ、今日ノ時勢ニ於キマシテ殊ニ其必要ガ大ナルヤウニ認メルノデアリマス、而シテ政府ガ多數民衆ノ福利増進ノ爲ニ施設スベキ事項ハ固ヨリ少クハナイノデアリマス、ケレドモ、労働者ノ保護、労働條件ヲ改善致シマシテ、其健康ヲ保護スルコト云フコトハ其最モ緊切ナルモノデアラウト存ズルノデアリマス、又外ニ於キマシテハ平和條約ニ於キマシテハ締結國ハ正義人道ノ原則ニ從ヒマシテ労働者ノ福利ヲ厚クスルコトヲ締約シマシテ、其趣旨ヲ實現スル爲ニ國際労働總會ヲ開キマシテ幾多ノ労働條約案ヲ決議致シテ居ルノデアリマス、勿論此等ノ條約ハ理想ニ走ラデ産業ノ實狀ニ適合シナイモノモナイデアリマセヌケレドモ、各國必シモ之ヲ悉ク實行シテ居ル譯ニハ參リマセヌケレドモ、併シ何レノ國ニ於キマシテモ其趣旨ニ於テ異議ノナイコトデアリマシテ、條約案ヲ批准シナイ場合ニ於キマシテモ漸次之ニ接近セントコトヲ務メテ居ル譯デアリマス、我國ニ於キマシテモ國內ノ社會、産業ノ實情ヲ考慮致シマシテ、其差支ナイ限りニ於テ是ガ條約案ノ趣旨ニ近附クヤウニ致スト云フコトガ一面ニ於テ國際信義上適當ナモノデアルト信ズルノミナラズ、世界ノ文明國トシテ、亦五大國ノ一トシテノ責任デモアラウト考ヘラレルノデアリマス、斯様ナ事情カラ致シマシテ労働者ノ保護ノ必要ヲ考ヘルノデアリマス、併ナガラ労働條件ノ改善ニハ申ス迄モナク産業トノ關係ニ付キマシテ慎重ナル考慮ヲ致サナケレバナラヌ、若シ労働者ノ保護ニ急デアリマシテ産業ノ衰退ヲ來タスヤウナコトガデアリマシタナラバ、國民生活ノ基礎ヲ脅カスノミナラズ、又延イテ労働者ノ福利ヲ増進スル所以デナイノデアリマス、故ニ此點ニ關シマシテハ十分ニ研究致シマシテ上デ産業ノ健全ナル發展ヲ期スル上カラシテモ適切ノ妥當デアルト云フ程度ニ此改正案ヲ整ヘマシタ次第デアリマス、本案ニ依リマシテ現行法ニ改正ヲ加ヘマスル主モナル點ハ、本會議ニ於キマシテモ簡單ニ申上ゲマシタノデアリマシタガ、一ハ工場法適用範圍ヲ從來十五人以上ノ者ヲ使ッテ居ル工場ニ限ッテ居リマシタ、ソレヲ改メマシテ十人以上ノ職工ヲ使ッテ居ル工場ニ迄及ボスコトニ致シマシタ、二ハ保護職工ノ範圍ヲ女子及ビ十六歳未満ノ者ト云フコトニ

ニ改メマシタノデ、三ハ保護職工ノ就業時間ヲ現在ハ原則トシテ十二時間ト致シテ居リマスルヲ一時間縮メマシテ十一時間ト云フコトニ致シタノデアリマス、四ハ保護職工ノ所謂深夜業禁止ニ付キマシテ現行法ハ尙ホ八年餘リノ猶豫期間ガ遺サレテ居リマスルヲ本案改正案ニ於キマシテ其施行後三年ト云フコトニ縮メマシタノデアリマス、五トシテ深夜ノ範圍ヲ現行法ハ午後十時カラ午前四時迄ト云フコトニナッテ居リマスルヲ改メマシテ今後ハ原則トシテハ午後十時カラ午前五時迄ノ六時間ト致シマシタ、行政官廳ノ認可ヲ得タ場合ニ夜ハ一時間長ク午後十一時迄就業スルコトヲ得セシメルコトニ致シマシタ、デ以上五ノ點ガ改正ノ主モナル點デアリマス、其他細カイコトガゴザイマスガ又御質問ニ應ジテ御答ヲ申上ゲルコトニ致シタイト考ヘマス、次ニ工業労働者最低年齢法案ノ説明ヲ申シマス、本案ハ工業ニ從事シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定メマシテ幼年者ヲ工業ニ使用スルコトヲ禁止スルモノデアリマス、幼年者ヲ工業労働ニ使用スルコト云フコトハ申上ゲル迄モナク其健全ナル發育ヲ妨ガマスシ、教育ノ機會ヲ失ハセマシテ、彼等ノ將來ヲ損フバカリデナク國民ノ見地カラ見マシテモ労働力ヲ減削シマシテ國民全體ノ文化ノ發展等ヲ阻礙セシムルニ至ルト思フノデアリマス、デアリマスカラ、各國何レニ於キマシテモ幼年者ノ労働ヲ禁止シナイモノハナイノデ、我邦モ亦現行工場法及ビ工業法ニ於テ既ニ之ニ關スル規定ヲ置イテ居ルノデアリマス、併ナガラ現行法ハ原則ト致シマシテ十二歳ヲ以テ最低年齢ト致シテ居リマスル上ニ輕易ナル業務ニ付テハ十歳以上ノモノデアレバ法令ヲ除去セシムルコトヲ許可スルコトニナッテ居リマス、デ、幼年者保護ノ上カラ見マシテ最低年齢ガ餘リニ低過ギルト思フノデアリマス、殊ニ又我國ノ義務教育制度ト矛盾スルコトモ考ヘラレルノデアリマス、デ此點ニ於キマシテモ識者ハ夙ニ其年齡引上ゲヲ主張シテ居ッタデアリマス、加之其適用ハ採掘、鑛山及ビ工場法適用工場ニ限ラレテ居リマシテ自然其適用範圍ガ狭イノデアリマス、又一面過般華盛頓ニ開カレマシタ國際労働總會ノ決議ニ付シマシテ最低年齢ニ關スル條約案ガ我國政府代表ノ意見ヲ容レマシテ原則トシテ十四歳ヲ以テ工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ト致シマシテ十二歳未満デ尋常小學校ヲ修了シタル者及ビ現ニ使用中ノ十二歳以上ノ者ニ付テ例外ヲ設ケルコトヲ我邦現下ノ事情ニ適合スルモノトシテ認メテ居ル、此度ノ提案ハ丁度此條約

ニ從ヒマシテ制定致シタヤウナ次第アリマス、内容方此條約案トビツクリ合致スルコトニナツテ居リマス、大體右申上ゲマシタヤウナ次第本案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、詳細ノコトハ御質問ニ應ジテ御答申上ゲルコトニ致シタイト思ヒマス

○政府委員(若宮貞夫君) 船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關シマスル法律案ニ付テ、概要御説明ヲ申上ゲマス、中スマデモナイコトデゴザイマスガ、幼年労働者ニ對シマスル特殊ノ保護ヲ致スト云フコトハ、訓育上カラ見マシテモ、又労働能率ノ増進ノ上カラ見マシテモ、勿論等閑ニ付スルコトガ出來ナイコトデアリマスガ、殊ニ海上ニ於テ使用シマス所ノ兒童ノ如キハ、常ニ家族ト離レテ海洋ニ出ル者デアリマスカラシテ、一居此必要ヲ感ズルト申ス次第デアリマス、ソコデ各國ニ於キマシテモ、海上ノ幼年労働者ノ年齢ヲ制限スルト云フコトニ關シテハ、相當ナ制度ヲ設ケテ居リマシテ、過般開催セラレマシタ國際労働總會ニ於キマシテモ、此點ニ鑑ミマシテ、第二回労働總會ニ於テハ、海上ニ使用スル兒童ノ最低年齢ヲ十四歳トスルコトノ條約案ヲ採擇イタシテ居リマス、又翌年ノ第三回労働總會ニ於キマシテハ、海上ニ使用セラルル兒童及少年少者ニシテ、十八歳未満ナル者ニ對シテ、一定ノ體格検査ヲ獎勵スルト云フコトノ條約案ヲ採擇イタシテ居ル次第デアリマス、唯今申述ベシマシタ二ツノ條約案ニ付テハ諸外國ノ模倣ニ付テ承ル所ニ依リマシタルコト云フ、大勢右條約案ハ採用スルコトニ傾イテ居ル云フコトデアリマス、サテ是等ノコトニ付キマシテ我國ニ於ケル實際ノ狀況ハ如何デアルカ、此點ハ研究ヲ要スル次第デアリマス、ソレヲ取調ベテ見マシタルコト云フ、大正十年末ノ調査ニ依リマスレバ、船員法ヲ適用シテアル所ノ汽船ノ乗組總數ガ五万人、其中デ十四歳未満ノ兒童ハ二百三十六人デアリマシテ、全體ノ數カラ比較シテ見マシタルト、僅ニ五厘内外ニ當テ居ル少數デゴザイマス、又十八歳未満ノ年少者ノ數ヲ調ベテ見マシタルト六千八百程デゴザイマシテ、全體ノ數ノ約一割四分ニ當テ居ル、斯ウ云フ實際デゴザイマス、デハ汽船デアリマシテ、帆船ニ付テ取調ベテ見マシタルコト云フ、右様船員法ノ適用シテ居リマス所ノ帆船ノ乗組員約二万二千、此二万二千ノ中デ、十四歳未満ノ兒童ハ三百人ニ足リマセヌ二百八十九人ト云フコトニナツテ居リマシテ、全體數ニ對シテ約一分二厘、又十八歳未満ノ者ハ二千六百三十三人デゴザイマシテ、全體數ニ較ベマシタルト約一割二分ニ當テ居ルノデゴザイマス、其數ハ割合ニ少イノデアリマス、尙ホ此外ニ本法案ノ適用ヲ受ケル所ノ船舶デアリマシテ、然モ船員法ノ適用ヲ受ケザル所ノ船舶ノ如キニ付テ申シマスルコト云フ、總噸數二十噸末

滿ノ帆船デアリマシテ、然モ事實上沿海航路以上ノ航海ヲ爲スト云フ所ノ乗組員ニ付キマシテハ、船員法ノ適用ガゴザイマセヌ故ヲ以テ、正確ナル割合ヲ申上ゲルコトハ出來ナイノデゴザイマス、併シ此法案ニ示シテアリマスル通りニ、同一ノ家庭ニ屬スル者ヲ乗組員トシテ居ル場合ニ付テハ、適用シナイコト云フコトニナツテ居リマスルカラシテ、此一ツノ家族ナリ家庭ナリヲ以テ構成シテ居ルコト云フヤウナ、小型船ヲ除外スルコト致シマスルコト云フ、其影響ハ少イコトグラウト云フコトガ推測サレ得ルデアリマス、デ引括メテ申シマスルコト云フ、海上ニ於テ十四歳未満ノ兒童ノ使用ヲ禁止スルコト云フコトハ、事實ノ上ニ差シタル差支アルコトハゴザイマセヌ、即チ使用サレル所ノ兒童ノ側カラ申シマシテモ、茲ニ大ナル失業等ノ問題ヲ惹起スルヤウナ恐レモナカラウト存ジマス、又使用者側カラ見マシテモ、是ガ爲ニ大イナル差支モ起ルト云フコトハ想像シ難イノデアリマス、次ニ十八歳未満ノ者ニ對スル體格検査ニ付テ、實況ヲ取調ベテ見マシテ、從來日本海員接濟會ニ於キマシテ、就職ヲ希望スル海員ニ對シテ體格検査ヲ執行イタシテ居リマスノデアリマス、又船舶所有者ノ或部分ノモノハ、船員ヲ採用イタシマスル際ニ、體格検査ヲ實行シテ居ルモノガナイデゴザイマセヌ、併ナガラ右申述ベシマシタル場合ハ、全體カラ見ルト寧ロ少數ノ場合デゴザイマシテ、大部分ハ何等ノ検査等ヲ致サズ、其儘乗船セシメタルコト云フ、折角船舶ニ乗リマシタ後ニ於テ、久シカラズシテ或ハ船内ノ勞務ニ堪ヘズ下船ヲ致シ、或ハ病ニ罹テ相當ノ治療ヲ致サナケレバナラヌト云フヤウナ場合ガ稀レナリト致シマセヌ、是ガ爲ニ雇者被雇者トモニ困難ヲ感ズルト云フヤウナ實例ガ多クアルノデアリマス、ソレデゴザイマスルカラシテ、政府ニ於キマシテハ、是等ノ實況ニ鑑ミマシテ、豫テ何等カノ方法ヲ講ジナケレバナラヌト云フコトヲ認メテ、調査ヲ致シテ居タルデアリマシタガ、先ニ申上ゲマスル通りニ、國際労働總會ニ於テ條約案ヲ採擇イタシマシタ今日ニ於キマシテ、之ヲ加味考慮イタシ、此條約案ニ加入イタスコトニ差支ナイヤウニ致シテ、制度ヲ設ケルコトハ、極メテ必要ナルコトト考ヘマシテ、本法案ヲ編成シテ提案イタシタ次第デアリマス、尙ホ各條ニ於キマシテハ、御質問ニ應ジマシテ詳細ニ申上ゲタイト思ヒマス

○委員長(伯爵中川久任君) 御質問ノ順序ハ、先ヅ工場法案ヨリ順次ニ御質問願ヒマス

○江木翼君 第三條ノ改正ニ付キマシテ御尋ネテ致シマスルガ、第三條ノ本改正案ガ實行サレマシタ曉ニ於キマシテ

依然トシテ從來ノ規定デアリマスル所ノ、第二項三項ハ其儘殘ルノデゴザイマスルガ、從來ノ規定ニ依リマシテ工場法施行令ニ依ッテ定メラレテ、施行規則ト云フモノデアリマスカ、細則ニ依ッテ定メラレテ居リマスル所ノ、機械生絲製造並ニ輸出細織物ノ工業ニ付キマシテ、二時間以內ノ延長ヲ當分ノ間、即チ本法施行後八年間位ニナリマスルカ、延長ヲ許サレルト云フコトハ、從來ト御方針ハ違ヒハナイノデゴザイマセウカ、如何デアリマス

○政府委員(塚本清治君) 第三條ト關聯シマスル施行規則ノ第三條、唯今規定ニ載テ居リマスル業務ニ付テハ、今日ノ原則デハ一時間ト云フコトニナツテ居リマス、唯今ノ考デハ施行規則ノ三條ノ業務ニ付テ、衆議院ニ於テ現行規則ニ載テ居ル以外ニ、紡績業ニ付テ此際考慮ヲ拂ッテ、施行規則ヲ改正スル時ニ十分考究シテ貴ヒタイト云フコトデアリマシタルコト云フコトヲ答ヘマシタ、其以外ニモ時間等ニ付テモ……今時間ニ付テハ改正シヤウトハ思ッテ居リマセヌガ、併シマア能ク考ヘテ見ヤウト云フヤウナ返事ヲ致シマシタガ、其以外此施行規則ノ三條ニ付キマシテハ、只今ノ所現在ノ方針ヲ襲フテ行ク積リデアリマス

○江木翼君 紡績等ニ關シマスルコトハ、只今ハ御尋ネテ致サナカッタデアリマス、機械生絲、機械製絲トソレカラ輸出細織物、機械製絲ノ工業ハ、概シテ言ハハ一種ノ期節的工業ニナツテ居リマシテ、繭ガ集テ、早ク之ヲ製絲シテサウシテ之ヲ輸出スルモノハ早ク輸出スル、斯ウ云フヤウニナツテ居リマス、唯今日マデ多少労働者ノ健康ヲ顧ミナイ譯デアリマス、生産ニ急ナルノ餘リ、時間ヲ餘計ニ労働サシテ居ルト云フコトハ、或點カラ已ムヲ得ナイ所モアルノデゴザイマセウ、ソレハ詰リ從來ノ狀態ヲ變ヘナイ、機械生絲、輸出細織物ニ付テハ、從前通りト斯様ニ承知ヲシテ宜イノデアリマス

○政府委員(塚本清治君) 左様デゴザイマス

○江木翼君 紡績ニ付キマシテハ本會議議御尋ネテ致シマシタ通り、多クノ紡績工場ニ於テ十一時間ニナツテ居ル、斯ウ云フコトデゴザイマシタガ、實際十二時間ノ現在ノ一般制限マデヤツテ居リマスル工場ガ、凡ソ百分比例ニシマスルトドノ位アルノデスカ

○政府委員(河原田稔吉君) 表デ差上ゲタ方ガ御便宜カト思ヒマス、後デ表ニ書イテ差上ゲマセウ

○江木翼君 夜業禁止ト云フモノノ制限ガ、向後三年ノ後ニ行ハレルト云フコトナリマスル、午後十時若クハ十一時ヨリ午前五時マデ、六時間乃至七時間ノ夜業デ、其夜業ガ

禁止トナリマスレバ、殘ル所ハ十七時間デアリマス、十七時間ヲ二部交代ニシテ參リマス場合ニハ、先ヅ一部ハ八時間勞働ト云フコトニナルグラウト思フ、午後十一時カラ午前五時マデト云フコトニ致シマシタ場合ニ於テハ、二部交代ニ致シマシタ場合ニハ、八時間半勞働八時間ニシテモ、八時間半勞働ニ致シマシテモ、假ニ之ヲ十一時間勞働ト比較イタシマスルト、非常ノ時間ノ違ヒデアリマスルガ故ニ、工場經濟ノ方カラ、申シマスルトデス、二部交代制ト云フモノハ、自ラ事實上、消滅シテ仕舞ッテ、紡績業ハ一部制ダケニナルト云フ結果ニナリハシナイデアラウカト思ヒマスガ、其邊ニ對スル御見込ミハ如何デアリマスカ

○政府委員(塚本清治君) 御話ノ通り深夜ノ時間ヲ十時カラ五時マデトスレバ、七時間殘リガ十七時間デアリマスガ、或ハ十一時カラ五時迄ニシマシテモ、六時間、一晝夜カラ引イテ後ガ十八時間、其十七時間、若クハ十八時間ヲ二組ニ分テ、交代ニ就業セシムルト、其場合ニ於テ、二組ニ分テ交代ニ就業セシメテ、一組ニシテ晝間ノ勞働ダケニシテ、紡績業ヲ經營スルノト……

○江木翼君 チョット御話中デアリマスガ、利害關係ト云フヨリモデス、工業經營ノ上ニ、利害關係上、工業者ノ方デハ時間半ナリ、八時間勞働ヤルト云フコトハデス、勞銀其他ノ關係上、不利益ニナルカラ、自ラ其方ハ止メテ仕舞ッテ、一部制ダケニナリハシナイカト云フ意味デアリマス

○政府委員(塚本清治君) 當業者ノ經營ニ關スル方針ハ、其何レニ赴クカ、當業者ノ事業上ノ見解ニ依ルコト思ヒマスガ、私共ノ見テ居ル所デハ、必ズシモ只今、御話ニナルヤウニ、晝間一回ノ勞働ニ依ル經營ニバカリ直グハ移ルマイ、矢張り二組ニ分テ交代ニ就業セシメル方ガ、少ナクトモ現在ノ機械、現在ノ工場ノ擴張増設サレナイ間ハ、サウシナケレバナリナイコトハ申スマデモナイ、ソレガデス、諸般ノ關係カラ何時マデ現在ノ機械、現在ノ工場ヲ繼續シテ行クカ、ソレ程當業者ノ財産上ノ見込ミデ、必ズシモ晝間一パイノ勞働ノ經營ニ依ルコトノミニナルマイ、斯ウ云フ風ニ聞キ及ンデ居リマス、私共モサウ思ヒマス、御話ノヤウニナルコトモゴザイマセウ、又サウシタ方ガ利益ダト信ジテ、既ニ機械モ増設サレ、工場モ擴張サレ、サウシテ一回ノ晝間ノ勞働ニ依ッテ、從來ノ生産額ヲ維持シ得ルト云フヤウナ工場ニアッテハ、左様ニナリマセウシ、又一ツハ需要供給ノ關係ニ依ッテ、業務ガ不振ニシテ、生産ヲ左様要シナイト云フヤウナコトニナリマスレバ、二組ニ分テ二回交代ニシルト云フコトヲ止メテ、一組ニシテ、一回交代ニモナリマセウシ、事業ガ盛ニ續イテ行ク間ハ、矢張り二組デヤラナケレバナラス、又其方ガ利益ニナルト云フヤウナコトニナラ

ウト思ヒマスカラ、經濟界ノ需要供給ノ關係ニ依リ、當業者ノ經營ノ方針ニ依テデス、一概ニ只今御話ノヤウニナラウトハ考ヘマセヌ

○江木翼君 此工場法ノ三條ノ十二時間ヲ十一時間ニセラルト云フ原則ハ、誠ニ結構ナコトカト思ヒマスルガ、先ヅキノ御話見ルト、衆議院ノ方ニ於テ、從來ノ機械製絲、並ビニ輸出絹織物ニ付イテ、時間ノ延長ヲ許シタト同様ニ、紡績ニ對シテモ、内務省令ノ定ムル所ニ依テ、時間ノ延長ヲ考ヘテ見ル、斯ウ云フ御話デゴザイマスルガ、ソレヲ許スト云フ方針デ、御考ニナルト云フ意味デアリマスガ、只今左様ナコトガ定マッテ居ル次第デアリマスルカ、如何デアリマスルカ、若シ左様デアルト致シマスルト、折角十二時間ヲ十一時分ナサレ、而モ紡績業ニ付イテハ、過日モ御答ノ如ク、大部分十一時間ニナッテ居ル、現實ニソレハ、二部交代ノ夜モ十一時間ヤルカモ知レヌガ、夜勤者……是ハ全ク別ノ人ガ働クノデアリマスガ、其十一時間方現在ノ進歩シタ狀態デアアル、ソレガ其クラキニナツタモノヲ、十二時間ニスルト云フコトハ、何トナク退歩ノヤウニ思ヒマスガ、其退歩シタ狀態ニシヤウト云フ御考ヘテ、只今持テ居ラレノデアリマスカ、如何デアリマスカ

○政府委員(塚本清治君) 第三條ノ原則、十二時間ヲ結局十一時間ニ短縮シマシテ、勞働者ノ保護ヲ厚ウスルコトニ、一步ヲ進メタ譯デアリマスガ、紡績業ニ付キマシテハ、過日本會議ニ於キマシテモ、申上ゲマシタ通り、近年支那ニ於ケルソレガ非常ナ發展ヲシタ、就中、太絲ノ方ハ將來日本ノ紡績ニ取ッテ、恐ルベキ脅威トナリハシナイカ、ト云フ懸念モアリマス、此邊ニ付イテ當業者ニアリマシテモ、非常ニ之ヲ心配シテ居ルコトと思フ、私共モ此點ハ餘程考ヘナケレバナラス、ソレニ付キマシテハ、我方紡績業ニ於テ、ソレム、又經營ノ方針モアリマセウ、少クトモ海外へ出ス太絲ニ付イテハ、或ハ方針ヲ變ヘテ、細イ方ニ向ケルト云フコトモゴザイマセウケレドモ、内地需要ノモノニ付イテハ、太絲ハカナカ大イニ必要ナコトデアリマスカラ、兎ニ角太絲モ生産シナケレバナラス、サウ云フヤウナニト考ヘマスルト云フト而シテ、又一方ニ於キマシテ、深夜業ヲ止メ、其上ニ二組ニ分テ、交代ニ就業セシムルト云フコトヲ止メマシテ、サウシテ晝間一回ダケノ勞働ニ依テ相當ノ成績ヲ擧ゲテ行カウスルコトスル爲ニハ勢イ十一時間デハ隨分苦シイ、誠ニ此場合ニ於テハ已ムヲ得ズ時間延長ニ依テ相當ノ生産額ヲ維持シナケレバナラヌヤウナ境遇ニ立至ルト考ヘルノデアリマス、サウ云フ點カラシテ此時間ノ延長ヲ考慮シタイト思ヒマス、而シテ其勞働者保護ノ上カラ見テサデ如何、唯今御述ベニナリマシタ通り如何ニモ十二時間ヨリ

ハ十一時間ノ方ガ宜シイト思ヒマス、十二時間ハ聊カ長過ギルト思ヒマス、原則ヲ十一時間ニ短縮イタシマシタヤウナ譯デアリマスカラ十一時間ノ方ガ宜シイトデアリマスケレドモ、併シナガラ其夜業ヲ止メサウシテ晝間ダケノ勤務ニ致シマスル點ニ於キマシテハ矢張り一步ヲ進メタノニハ相違ナイ、申上ゲル迄モナク夜業ノ場合ニ於キマシテハ隨分保護職工ノ心身ノ上ニ害ガ多イデアリマス、之ヲ免ルル上ニ於テハ矢張り一進歩デアリマスケレドモ、夜業ヤラセナイト云フ上ニ於テ一方ニ於テ生産額ヲ維持スル爲ニ、他ノ一方ニ於テ衛生上ニ一歩進ンダリ利益ヲ收メテ其代リニ十一時間マデ短縮サレタ利益ヲ十分ニ補充スルコトハ出來マセヌガ、ソコハ忍ンデ十二時間ニ延長スルコトノ意見ヲ考ヘテ見ヤウト云フコトニナッテ居リマシテ、其對外關係及ビ紡績業者ノ經營ノ上カラ見マシテ理由アリト信ズルノデアリマシテ、施行規則ノ制定ノ時ノコトデアリマスケレドモ、當局ト致シマシテハ十分ニ考慮シテ之ニ應ズルコトノ策トシテ時間ノ延長ヲ考ヘテ見タイト思フテ居ルノデアリマス

○江木翼君 十一時間ヲ十二時間ニスルコトヲ考ヘテ見ヤウト云フ御話デアルト致シマスルト、更ニ第二ノ問題ガ起ッテ來ル譯デゴザイマスガ、十二時間、而シテ十二時間ヲ以テ一部制デヤッテ居リマス所ノ工場ト、ソレカラ深夜業ヲ止メテサウシテ八時間半交替デモッテ二部制デヤッテ行キマスル工場ト二ツガ併立スル、斯ウ云フ結果ニナルト思フノデゴザイマスガ、ドウモ私共ヨクソコヲ工業經濟ノ關係ガ分リマセヌガ、十二時間デ一部制デヤッテ行クモノト、八時間半デ二部交替デヤッテ行キマスルモノトデス、經濟上ノ關係ハ如何デゴザイマセウ、結局ハ私ハ到底十二時間一部制ニ對シテ八時間半二部交替ト云フモノハ競争スルコトガ出來ナイ、不經濟ニ陥ルト云フコトナリマシテ自ラ二部制ト云フモノハ絶滅シテ、後ヲ絶ツト云フ結果ニナルグラウト云フ豫想ヲ有ッノデアリマスガ、政府ニ於テハ左様ナル御見込ハ御持テナラスデゴザイマセウカ

○政府委員(塚本清治君) 先刻申上ゲマシタ通り……

○江木翼君 先刻ノハ十一時間デ今度ハ一時間違ッテ來タヤウデス

○政府委員(塚本清治君) ズット後ニナリマシテハ或ハ結局晝間一杯ノ勞働ニ依ル經營ニナツツ仕舞フカモ知レナイト思ヒマスガ、マダマダ唯今ノ工場、唯今ノ機械ノ設備デハ事實一回一部制ニ依ルコトノ出來ヌコトハ申ス迄モナイ、サテ機械ノ工場ノ擴張、機械ノ増設ニ依テマデ一回一部制ニ依ルコトガ利益デアアルカ、或ハ唯今ノ規模デモッテ八時間半ノ勞働時間ニシテ二部制ガ利益デアアルカ、是人ノ見込

○江木翼君 材料ヲ頂戴イタシタ上デ、更ニ又御尋イタス機
會ガアリマセウガ、私ノ大體御尋イタス趣旨ノ一ツハ、唯是
モ私一個ノ致シマシテ考ヘマスレバ、勞銀ガ低減スルト云
フコトハ、今日ノ我國ノ狀態ニ於テハ、必シモ惡イトハ思ハ
ナイノデアリマス、勞銀ガ寧ロ今日ハ高過ギル、工業ノ整理
ニ依テ勞銀ガ下ル、失業ガ餘計ニ出ル、失業ガ餘計ニ
出レバ自カラ勞働ノ供給ガ多クナル、供給ノ競争ガアル、供
給ノ競争ガアルレバ自カラ勞銀ガ下ルト云フコトニナリマス
カラ、私ハ其失業ガ多クナリ、勞銀ガ下ッテ來ルト云フコト
ハ、必シモ日本ノ生産事業ノ爲ニ悲ムベキコトデアルトハ
思ハナイノデアリマス、寧ロ今日ノ變態ヨリ漸次常態ニ復
スル所ノ道程トシテハ、已ムヲ得ナイコトデアラウト思ヒ
マスルガ故ニ、成ベク勞銀モ出來得ベクシテ常態ニ復シ、且
ツ時間モ少ナクナリ、且ツ生産ノ量モ餘リ減ラナイ、消費
ガ迷惑ヲ感ジナイヤウニ、斯様ナ狀態ノ起ルコトヲ實ハ望
ムノデアリマス、デソレヲ持來タス最モ良イ方法ハ何デア
ルト云フコトヲ考ヘルノガ宜クハナイカト思フノデアリマ
ス、デ尙ホ材料ヲ頂戴シタ上デ御尋イタス機會ヲ得タイト
思ヒマスルガ、續イテ時間ノコトニ付テ尙ホ承リタイ點ハ、
歐羅巴、亞米利加等デハ、多ク時間ヲ定ムルニ週間……一週
間ヲ以テ定メテ、例ヘバ四十八時間勞働デアルトカ、或ハ六
十時間勞働デアルトカ、斯ウ云フコトヲ極メテ居ルノデア
リマスルガ、日本デハ或ハ一週ニ一日ノ休日ヲ設ケルト云
フコトモナク、或ハ毎月ニ二回トカ、即チ十五日置キニヤル
トカ、十四日置キニヤルトカ云フヤウナ事例ニナッテ居リマ
スカラ、左様ナコトモイカスカモ知レマセウガ、何カ一週間
ノ最高、若クハ二週間、若クハ十五日ニ付テノ時間ト云フモ
ノヲ極メテ、其間ニ於テ休養ヲ與ヘルトカ云フヤウナ時間
ハ、或ハ工場ノ都合等ニ依リマシテ多少ノ自由ヲ許スト云
フ方ガ便利デハアルマイカトモ考ヘラレマスルガ、ソレ等
ニ付テ御考慮ニハナラナカッタデゴザイマセウカ

○政府委員(河原田稼吉君) 段々御意見ノ次第ハ承リマシ
タガ、週トカ若クハ一定ノ期間ヲ極メテ賃銀制度ヲ定メマ
スト云フコトハ、ソレゾレ其國ノ慣習等モアリマスルシ、餘
程困難ナ事情ガアリマス、斯ウ考ヘテ居リマス次第デア
リマス、ソレカラ唯今御話ノ一週例ヘバ四十八時間ト云フ
ヤウニ、週ヲ單位ニシテ時間ヲ極メテ居ルヤウナモノモア
リマスルガ、是ハ御承知ノ如ク國際勞働會議ニ於テモ、大抵
一週ノ最長時間ト、一日ノ最長時間ト、兩方テ押ヘタヤウナ
次第デ、大抵他ノ國モ週ヲ以テ押ヘル場合ニハ、矢張り一面
ニ於テ一日ノ最長時間ト云フモノヲ規定シテ居ルヤウニ考
ヘルノデアリマス、是ハ一週ヲ以テ極メマスルノモ一面便
利ナ點モアリマスルガ、サウ致シマスルト一日ノ時間ヲ無

暗ニ長クシマス、サウシテアトヲ例ヘバ丸休トカ半休ヲ與
ヘルト云フヤウナコトガ起リマスルノデ、サウ致シマスル
ト一日ノ勞働時間ハ、人間ノ一日ノ勞働ニ對スル時間ト云
フモノハ、相當極限ガアラウカト存ジマスノデ、矢張り週デ
押ヘテアリマス場合ニハ、矢張り一日ノ最長時間ヲ押ヘル
コトガ必要デアル、斯ウ云フ所カラ來テ居ルヤウニ考ヘマ
ス、從ッテ我國ニ於キマシテハ週ヲ以テ押ヘルコトハ、今日
尙ホ週休トカ、丸休半休ト云フヤウナ制度ハ、產業界ニ於テ
ハ未ダ立ッテ居ラスノデアリマスカラ、週ヲ以テ押ヘルコト
ハ困難ト存ジマスノデ、先ヅ一日ノ最長時間ヲ押ヘルト云
フノガ今日ノ現狀ニ適シテ居ルデハナイカ、斯ウ考ヘマス
ヤウナ次第デアリマス

○江木翼君 此夜業ノ時間ハ確カ紡績聯合會ノ意見デア
ル、是ハ此所ニ和田君モ居ラレマスルガ、和田君ナドノ方デ
御決定ニナッテ御出シニナッタモノト思ヒマスルガ、之ニ依
リマスト午後十一時ヨリ午前五時ト云フモノニシテ實
ヒタイ、ソレカラ場合ニ依ッテ午後十一時ト云フモノヲ午
後十二時マデ延バス、從ッテ左様ナ場合ニ於テハ午前四時
ト云フモノヲ午前六時ニ延バシテ費ヒタイ、斯様ナ意見ガ出
テ居ルヤウニ思フノデアリマス、私ハ協調會ヨリ廻サレマ
シタ參考書ニ依ッテ見テ承ッタノデゴザイマスガ、先程政府
委員ノ御説明ニ依リマス、紡績聯合會ノ意見ヲ尊重シテ
ヤッタト云フ御話デゴザイマスガ、其點ハ此改正案デハ載ッ
テ居ナイヤウニ思フノデアリマス、一體我國ノ實際狀態ハ
地理的關係ヲ見マスルト、非常ニ東西ノ「ストレッチ」ト云フ
モノガ長イノデアリマシテ、東京ノ日出ト九州ノ日出ヲ比
ベマスルト、約三十四分ノ差ガアルノデアリマス、然ルニ日
本ノ標準時ハ御承知ノ如ク一定サレテ居リマシテ、内地ダ
ケハ同ジ標準時ヲ採ッテ居ル、朝鮮臺灣モ此節ハ一緒ニナッ
タカト思ヒマス、滿洲ダケハ違ッテ居リマス、一時間ノ差ガ
アルノデアリマスガ、兎ニ角略、一時間近イ所ノ實際上ノ差ガ
設ケテ居リマスガ、兎ニ角略、一時間近イ所ノ實際上ノ差ガ
アルノデアリマスカラ、或ハ所ニ依リ是等ヲ多少土地ニ適
合シタル方法デ以テ、伸縮ヲ自在ナラシムルト云フ方ガ適
當デハナイカト云フヤウナ考ヲ起スノデアリマスガ、唯今
紡績聯合會ノ意見ヲ尊重スルト云フヤウナ御趣意ガアッタ
ノデ其紡績聯合會ノ意見ハ頗ル適當ナ所ガアルヤウニ思
フノデアル、又一面ニ於キマシテハ本改正案ノ趣旨ヲ見マ
スト、千九百六年ノ「ベルヌ」條約ヲ其儘ニ御用ヒニナルカ
ト云フト、矢張りサウデモナイノデ、延長時間ヲ一時間マデ
許スコトニナッテ居ル、ソレヲ許セバ矢張り條約ニ適合セ
ス、條約ノ趣旨ハ其儘御用ヒニナラヌノデアリマスカラ、
從ッテ夜業禁止ニ關スル條約ハ、御批准ニナラヌモノト私ハ
推察スルノデアリマスガ、サウスルトナンダカ日本ノ地理

的狀態其他ニ適合シタル……氣候地理ニ適合シタル制度ヲ
御設ケニナル、即チ紡績聯合會ノ意見ノ如キハ相當適當ノ
モノノヤウニモ考ヘマスガ、必シモ是ハ私ノ確定シタル意
見アルデハナイノデスガ……政府ノ御所見ヲ承ッテ置キタ
イノデアリマス

○政府委員(塚本清治君) 御話ノ通り所謂深夜ノ時間ヲ、
紡績聯合會ニ於キマシテハ寧ロ原則トシテ十一時カラ五時
マデ、而シテ例外トシテ夜ハ十二時迄就業セシメテ、其代リ
マデ朝ハ六時マデ就業セシメ、六時カラ就業セシメルト云
フコトニシタイト云フ意見ガ出シマシタ、其理由ハ唯今江
木サシカラ御述ベニナリマシタヤウナコトモ確ニ這入ッテ
居ラウト想像シテ居ル、又現ニサウ云フ理由ヲ述ベラレタ
當業者ノ方モアリマシタ、而シテ當局ニ於キマシテモ此點
ハ大分考ヘテ見タノデアリマス、大分考ヘテ見タノデアリ
マスルガ、如何ニモ此夜十二時マデ仕事ヲサセテ置クト云
フコトハ、ドウモ衛生保健ノ上カラ云フテ宜クナイ、矢張り
十時以後ニナレハモウ人ノ休ム時デアリマス、十一時迄ト
シテ、十一時マデノ期限トシテハ或ハ辛抱出來マス、之ヲ十
二時マデヲ期限トシテ置クト云フコトハ如何ニモ宜シクナ
イト云フヤウニモ考ヘテ居リマス、サウシテ外國ノ例ニ必
ズシモ常ニ據ル譯デハアリマセウケレドモ、此點ニ於テ、何
處ノ國ニ於キマシテモ、實ハ十時以後マデ未成年工、或ハ女
工等即チ保護職工ヲ就業セシメテ居ル所ハナイ、十時、或ハ
九時、或ハ八時カラモウ休マシテ居ル、サウシテ願ハ五時、
或ハ六時ナンドスガ、十時以後ニ就業セシメテ居ル國ハ何
處ニモナイ、ソレカラ又華府會議ノ條約案ヲ其儘採用シタ
譯デハアリマセンケレドモ、併シ此點ニ於テハ又華府會議
ニ於テモ夜十時ト云フコトニ深夜ヲ極メテ居ル、又現行法
ガ十時カラ十時ト云フコトニ深夜ヲ極メテ居ル、又現行法
スカラ、現行法ヲ先ヅ製ウテ行ク、併ナガラ當業者ノ利害ヲ
考ヘマススト云フト、先刻來江木サシカラモ、御話ニナリマ
シタ通り一晝夜二十四時ノ中デ、午後十時カラ朝五時マデ
七時間ヲ引キマシテ、残りガ十七時間、其十七時間ヲ二ツニ
別ケテ、更替就業ヲセシムル場合ハ、如何ニモ勞働時間ガ少
クテ宜イ、ダカラセメテ其二組ニ別ケテ更ニ就業セシメ得
ル場合ヲ考ヘテ、深夜ノ時間ヲ短縮シテ、他ノ時間ヲ延長シ
タイト云フ當業者ノ希望ガアッタ、ソレデ其爲ニ夜ノ十時カ
ラノ就業禁止ヲ一時間緩メテ、十一時カラ以後ノ禁止ニ致
シマシタ、其點ニ於テ紡績聯合會ノ意見ヲ採ッタノデアリマ
ス、其他ノ十二時マデ夜就業セシメテ、朝ハ六時マデ就業ヲ
禁止スルト云フ點ハ同意シナカッタ、即チ一部紡績聯合會ノ
意見ニ同意シ、他ノ一部ハ同意シナカッタヤウナ譯ニナルノ
デアリマシテ、或意味ニ於テハ折衷ミタイニナッテ居リマ

ス、要スルニ夜ハ矢張り原則トシテ十時カラハ就業セシメ
タクナイ、例外トシテ紡績業ノ經營ノ上ノ利害ヲ考ヘマシ
テ、十一時マデノ就業ヲ加ヘタヤウナ譯デアリマス

○江木翼君 私モ固ヨリ深夜業ノ間隔ヲ短クスルト云フコ
トニ賛成デアアル、斯様ナ意味申シタノデハナイ、ソレハ私
ノ意見デアリナイト云フコトヲ殊更附加ヘテ紡績聯合會ノ意
見ニ對スル政府ノ所見ヲ承ハタ次第デアリマシテ、現行ノ
深夜業禁止ノ法律條項ハ主モ一千九百六年ノ條約ニ基イテ
之ヲ參照シテ出來テ居ルモノデアラウト思ヒマス、故ニ、
所謂世界的ノ制度ノ一ツデアアル、斯様ニ申シテ宜カラウト
思ヒマス、ソレモ、機宜ノ措置トシテ多少ノ緩ミヲ附加ヘルト、
ソレヲドノ位マデヤルカト云フ點ニ付テ御尋ネイタシタ次
第デアリマスガ、大體其御考ノ所ハ能ク分リマシタ、私ノ工
場法中改正法律案ニ對シマシテ御尋ラ致サウト思ヒマス、
主ナル點ハ、略、ソレデ盡キタノデアリマスガ、先程要求イ
タシマシタル材料ヲ賁ヒマシテ、尙ホ其上デ御尋ラズベキ
點ハ御尋ラシタイ、斯様ニ思ヒマス、一應是デ私ノ質問ハ打
切リマス

○委員長(伯爵中川久任君) ドナタカ他ニ工場法ニ付テノ
御質問ガゴザイマス

○大久保利武君 チョット私ハ條約關係ニ付テ伺ヒタイト
思、テ居リマスガ、此度ノ條約ノ關係カラシテ斯ノ如キ國內
法ノ改正ヲサレテ提出ニナツタノデアリマスガ、斯ウ云フ風
ニ解シテ宜イモノデアアルカト云フコトヲ伺フノデアリマ
ス、此工場法ノ改良ハ、華府ニ於ケル勞働會議並ニ「ヴェ
ルサイユ」ニ於テノ會議ノ關係カラシテ、改正ヲ見タノデア
リマス、ルガ、華府ニ於ケル會議ニ於テ日本ノ全權カラシテ、
段々日本ニ於ケル特殊ノ事情カラシテ除外例ヲ設ケラレ
タ、成ルベク日本ノ事情ニ適スルヤウニ會議ノ條項ヲ認メ
ラレルコトニ盡力ヲサレタノデアリマス、デ此ノ度國內法
ヲ制定サレマシタガ、華府會議ニ於ケル決議ハ種々ニ互
居、條約ノ範圍モ種々ニ互、テ居ルヤウデアアルガ、是等ノ
條約ハ御批准ニナレバ法律ノ效力ヲ有ツコトデアリマス
ガ、サモナクシテ、斯ノ如キ國內法ヲ、是等ノ條約ニ基イテ
出サレルト云フコトハ、彼ノ條約……全權ガ御印サレタ條
約ニ付テハ尙ホ政府ニ於テ御印ハサレタガ、國內ノ事情ノ
上ニ必要ヲ認メタモノダケ順次國內法ニスルトカシテ或ハ
御批准ヲ仰グト云フコトニ付テ實施ヲ見ルト云フコトニ
ナツデ、強テ外國ニ於ケル國際會議ニ於テ全權委員ガ御印シ
タモノハ悉ク之ヲ實施スルト云フ義務ハナクシテ、マア國
内ノ事情ニ適當ト思フタモノダケ我國ニ於テ實施スルト云
フコトデアツテ、皆全權ガ御印シタ條約ハ成ベク精神ハ之ガ
協調ヲ保ツテ行クガ、強テ之ヲ實施スルト云フ理由ハナイノ

デアアル、斯ウ云フ風ニ解シテ宜イデアリマセウカ、其邊ノ
コトヲ伺ヒタイ、ソレカラ合セテ外國ニ於ケル批准實施ノ
模様等ヲ大略合セテ伺フコトガ出來レバ仕合デゴザイマス
ガ、ソレヲドウゾ……

○政府委員(山川端夫君) 勞働會議ヲ採擇シマスル條約案
ニ付マシテハ普通ノ條約ノ場合ト餘程ヤリ方ガ違フテ居ル
ノデアリマス、御承知ノ通りニ勞働會議ニ對シマシテハ政
府代表ガ二人ニ資本家ヲ代表スル者ガ一人、勞働者ヲ代表
スルモノガ一人ト云フヤウニ四人ノ代表者ガ加ハリマシテ
各國カラ出マシテ、サウシテ政府ノ意見ニ關シテ必ズシモ
考慮セズシテ任意ノ意見ヲ有テ向ウデ投票等ヲヤリ得ル
コトニナツテ居リマス、ソレニ各國カラ出マシタ四人ノ代表
者ノ投票ガ三分ノ二以上ニ達シマスレバ、其案ハ或ハ條約
案或ハ勸告トシテ總會ヲ採擇スルコトニナツテ居リ
マス、ソレデ總會ヲ採擇シマスルモノデモ、厥ナ國デモ
矢張りソレハ採擇シタモノトシテ取扱ハネバナラヌト云フコ
トニナツテ居ル、ソレダケデ各國ヲ拘束スルト云フコトハ具
合ガ惡イノデアリマス、ルガ、ソレデ其ノ上ニ更ニ各國ハ之ヲ
自國ノ權限アル機關ニ付議シテ、サウシテ權限アル機關デ
ソレヲ採擇スベシト云フコトニ決議ラシマス時ニ初メテ之
ガ條約案ヲ條約トシテ批准スルト云フコトニナツテ居リマ
ス、ソレデ何ガ權限アル機關デアアルカト云フコトハ各國ノ
國內法決メルコトニナツテ居リマス、日本デハ樞密院ト云
フコトニ國內法上解釋シテ、サウ云フ風ニ政府ハ認メテヤ
テ居リマス、ソレデ此條約案ニ付マシテハ樞密院ノ趣意ニ
依リマシテ、國內法ニ於ケル權限アル機關ニ付議スルト云
フ趣意ニ依リマシテ樞密院ニ付議致シ政府ノ意見ニ依リマ
シテ工場法改正案ニ關係スル條約案、是ハ四ツアリマス、時間
制ニ關係スル條約、產前產後婦人使用ニ關係スル條約、夜間ニ於
ケル婦人ノ使用ニ關係スル條約、同ジク年少者ノ使用ニ關係
スル條約、斯ウ云フ條約デ此規定ノ儘今日ソツクリ日本デ之
ヲ實施スルコトハ適當デナイト云フコトニ樞密院ニ於テモ
認メマシテ、サウシテ日本トシマシテハ此條約ハ今日之ノ
實施ノ手續キヲシナイト云フコトニ決定ニナリマシタ、其
コトハ權限アル機關デサウ云フコトニ決定ニナツタト云フ
コトハ工場法案ノ精神ニ通ジテ居ルノデアリマス、ソレデ條
約關係カラ申シマスレバ、今ノヤウナ權限アル機關デ之ヲ
採擇スベキモノト、スベカラザルモノト云フコトニ決定シ
マシテ、政府ニ於テモ批准シナイト云フコトニナリマスレ
バ、ソレデ政府ハ何等ノ責任ハナイト云フコトニナルノデ
アリマス、是ハ四百五條ノ規定ニサウ云フ規定ヲ設ケテ居
リマス、併ナガラ實際ノ場合ニ於キマシテハ勞働會議ニ列

スル各國ニ於キマシテモ、勞働會議ヲ決議シタ事柄ハ成ル
ベク差支ナイ限リハ之ヲ實行スルト云フコトニナツテ居リ
マス、又今申上ゲマシタ通りニ多數決デ決マル會議デアリ
マス、ルガ、日本ノ特別ノ關係ヲ能ク明カニシテ日本ノ爲ニ
必要ナル條約案ト成ルベク作ルヤウニスル爲ニハ、日本ト
シテモ誠意ヲ有テ勞働問題ヲ處理シテ行クト云フ態度ニ
出ル方ガ却テ適當デアアル、ト云フ風ニ認メテ居リマス、ソレ
デ條約ノ關係ハアリマセウガ實際上ノ問題トシマシテ日本
ノ國內關係ニ於テ差支ナイ限リハ之ヲ實行スル方ガ適當
アルト云フ、工場法ノ改正案モ提出サレタ次第デゴザ
イマス、尙ホ外國ニ於テ條約案ヲ規定シマシタ事柄ハ既ニ
參考書トシテ配テアリマス、外國工場法適用……三十頁
ニ大體ノモノハ掲ゲテアリマス

○委員長(伯爵中川久任君) 大久保サシニチョット御尋シ
マスガモウ宜シウゴザイマス

○大久保利武君 モウ宜シウゴザイマス

○男爵眞田幸世君 チョット今開漏シマシタガ各條約トモ
是ハマダ我國ノ方デハ御批准サレタモノハ無イノデスカ

○政府委員(山川端夫君) 既ニ御批准ニナツタモノガ二ツ
ゴザイマス、第一回勞働總會ニ於テ採擇サレマシタ失業ニ
關スル條約、ソレカラ第二回ノ勞働總會ニ於テ採擇サレマ
シタ海員ニ對スル職業所設置ニ關スル條約、此二ツハ既ニ
御批准ニナリマシテ済ミマシテゴザイマス、デ其他ニ第一
回ノ工業ニ使用シ得ル最低年齢ヲ定ムル條約、第二回ノ海
上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定ムル條約、ソレカラ第三
回ノ海上ニ使用シ得ル兒童及壯丁ノ體格調査ニ關スル條
約、是ハ内容ニ於テ、採擇シテ批准ノ手續ヲシテ差支ナイト
云フコトニナツテ居リマス、唯先例ニ依リマシテ、豫メ國內
ノ法令等ニ必要ナ改正ヲ加ヘマシテ、國內ノ實施ノ運用ヲ
圓滑ニスル所カラ法律案ヲ出スコトニナツテ、ソレガ通過ス
レバ御批准ニナラウト思ヒマス

○委員長(伯爵中川久任君) ソレデハ如何デゴザイマス
カ、今日ハ是デ閉デマシテ、又他日ニ讓ルコトニ致シマシテ
ハ、御異議ガナケレバ……

○大久保利武君 此次ハ何日デスカ

○委員長(伯爵中川久任君) 明後日本會ガ無ケレバ、午前
十時本會ガアレバ又追ッテ……

午後零時二分散會

出席者左ノ如シ

- | | | |
|------|------|-----|
| 委員長 | 伯爵中川 | 久任君 |
| 副委員長 | 淺田 | 德則君 |
| 委員 | 大久保 | 利武君 |

國務大臣

政府委員

男爵眞田 幸世君

男爵藤村 義朗君
江木 翼君
和田 豐治君
三田 義正君

逕信大臣 前田 利定君

外務省條約局長 山川 端夫君
社會局長官 塚本 清治君
社會局部長 河原田 稔吉君
逕信次官 若宮 貞夫君
逕信省管船局長 宮崎 清則君

大正十二年三月三十日印刷

大正十二年三月三十一日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局